

## 魅力あふれる行田市 まち歩きが人気

埼玉県北部に位置する行田市。埼玉県名発祥の地。魅力あふれる行田に熱い視線が注がれている。

そのひとつが「花手水」。2020年4月、新型コロナウイルス禍で自粛生活のなか、「参拝に訪れる方に癒しを提供したい」と行田八幡神社で始まった。2020年10月からは神社のほか、商店や民家の軒先に花手水を飾る「花手水week」をスタート、毎月1日から14日まで開いている。「花手水」の取り組みは地域全体に広がっている。いまでは70鉢を越え、行田のまちが華やぎ彩に添えられている。

2021年4月から「希望の光」をテーマにライトアップイベントも開催。忍城址と行田八幡神社などを花手水と幻想的な光で演出。周辺の店舗などに飾られている花手水も一斉にライトアップ。ライトアップは毎月第1土曜日の日没後から20時まで原則実施。

「花手水」の取り組みは訪れた人たちによりSNS(交流サイト)でも発信。行田のまち歩きが人気を集めている。

ライトアップイベントを推進しているのが、行田おもてなし観光局。2021年1月に設立。観光事業などを手掛ける専門組織だ。2022年4月から1年間、忍城・行田市郷土博物館と周辺を会場にイベントを実施。忍城を舞台に謎を解いていく謎解きゲーム。忍城は関東七名城のひとつ。小説「のぼうの城」で描かれ、映画化もされ注目を集めた。

2015年に世界最大の田んぼアートとして、ギネス世界記録に認定された「行田の田んぼアート」。水田をキャンパスとして、色彩の異なる稲を植えて、文字や絵柄などを表現する。見ごろは7月中旬から10月中旬まで。2021年度は約2万8,000平方メートルの田んぼに浮世絵と歌舞伎を描いた。古代蓮の里で見る田んぼアートは壮観だ。

行田市の石井直彦市長は、「行田市はいま、花手水などの新たな取り組みが注目され、非常に活気づいている。これからも、さらに多くの方に行田を知っていただき、訪れていただけるよう、観光地行田の魅力を発信していきたい」と話している。

埼玉新聞社 東京支社長 秋谷明宣



忍城址を花手水と幻想的な光で演出  
ライトアップは毎月第1土曜日の日没後から20時まで原則実施（行田市提供）



ギネス世界記録に認定の行田の田んぼアート  
2021年度は田んぼに浮世絵と歌舞伎を描いた（行田市提供）